Nov. 1891
No. 290

女學雜誌

第二百九十號
明治二十四年十一月七日發兌

地震の理解
シエクスピアの理想
道徳上に天災地變を論辨す
樂翁公と徳川時代
民友子の女學

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 290. NOBEMBER 7TH. 1891.

EDITORIAL:—Celestial and Terrestrial Phenomena.

LITERARY:—Shakespeare's Ideal.

CHILDREN'S COLUMN:—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

MISCELLANEOUS:—A Sad Event. What the Temperance Work has done for Women.

THOUGHTS AND FANCIES:—Shibaura, in the Moonlight. How Can We Know Each Other?

NOVEL:—"Musoken" (Concluded.)

NATURAL PHILOSOPHY. About Earthquakes.

CRITICAL NOTES.

CURRENT NEWS.

第二百九十號目次

●社說 天災地變

●文學 シェクスピアの理想（撫象子）

●兒籃 小公子（若松しづ子）

●雜錄 嗚呼悲哉（花の妹）○白標の鐘（禁酒事業が婦女子に於ける感化の答）

●隨感 芝浦の月見（ひさご）○何如にして人を知るべき（方寸子）

●小說 無想劍（暗光子）結末

●理學 地震のはなし（吉田伸子）

●批評 基督の姿○白河樂翁公と德川時代

●時事 平地激動○安んぜよ○廢娼同盟年會

（リツトル。ロード。フオントルロイ）

小公子

巖本善治妻譯

小供のよみ本

新版來る十日發賣 少年文學書

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遙する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネイ、と申たとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陥らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるは、神聖なる天職を擠ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故、此珍重すべきまろうどを尚一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髪の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且尚ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁、密畫十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。

一冊正價三十八錢。郵稅八錢也。

發兌元 東京市下六番町六番地 女學雜誌社

女學雜誌 第二百九十號
明治二十四年十一月七日發兌

社説

天災地變

リツトンが小説に、ボンペーの末期を想像し、父老が夜ばなしに安政の大地震を思ひ遣りしは、實に淺墓ある心根にてありける。濃尾に起れる悲慘の大變事は一幅七難の圖畫を掛て明々地に吾人が目前に現はる、たゞ涙のゆえに判然之を見がたきのみ。

巨木の下に頭を碎き、血迸ばしりて即死せし人こそ寧しろ幸わひなれ。やう〳〵に急所を避けたれど手足を挿まれて倒れたる屋根の下にうづこまり、猛火の響漸次近づきて燒くる音すでに頭上に臨み、烟炎閃めきて皮をこがし、肉をあぶり、骨を燒き盡したる人の哀れさよ。偶然逃れ出でたれど、老ひたる母病ひの床に伏し玉ふを覺り、再たび入んとして棟梁の落る下に碎かれたるもの、緑兒驚ろき騷ぎ泣いて乳房を含むの時、地割て母子生ながら土中に葬られたるもの。幾百の母夫の業に助け、子の養ひに扶持せんとて夜職工場に集まり働らけるとき、煉化火柱の如く倒れ、石あられの如く降り、腦を打れ、骨を挫かれ、倒れて其まゝ被ひ壓されたるもの、切めては其夫また其子と共に死せざりしを恨みつらん。

全市滿目灰の如し、死骸積みて山の如し、生存するもの半ば手負の如し、會するもの總て弔らふ人の如し、何んぞ其の慘澹なるや。前夜空晴れて月美はしく輝り。木の葉躍りて星を近く招き、光景何んとなく樂しかりき。人皆な歌ふて云はく年豐かにして四海平らかなり、天に謝せざる可らずと。夜未だ明けず、烏雀尙ほ塒に息ふとき、乍ちにして此の事あり。人世の變化恒なきと何んぞ夫れ此の如く太甚しき。天道、是か非か、災變何の故に存する、不運何の故に來る、人は悲しまんが爲めに父母兄弟ありや、腸を斷ぜんが爲に切なる情を賜はりしや。あゝ何んぞ木石草花は悲痛の外に逍遙して、萬物の靈長は常に斯の如く痛ましき哉。

吾人かゝる歎きの徒に同情を表す、請ふ一言を呈して其惑を解き、併せて天災地變の極めて人世に益あるとを説ん。天災地變は實に上帝、人を惠むの賜物にてある也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此世の造り主は、全能と愛との二つを兼備ふるとなし、若し愛ありとせば其全能に欠くる所ろあらん、もし全能なりとせば其愛に至らざる所ろあらん、彼は二つを兼ぬるとなけん、果して之を兼ぬるとせば、世に不幸災害あらん筈なしとは、ミル氏以來多くの不信の徒の心に蟠かまる疑問なりとす。友よ、請ふ唯だ一つの事に注念せよ、左らば君達が疑ひ、釋然として解けん。

夫れ人の一生は肉ある間に限られず、肉朽ると雖ども何ほ其命は存するなり。死は万事を休する乎、最とも高尚なる哲學者は大率ね然らずと答へ、最とも至誠ある人情は皆な然あるまじと確信せり。實に人は此世を以て終るものにあらず、此世は人の一生の一部分のみ、永生は限りなくして天の廣く且つ遠きが如し。

而して、人の人たる所以のものは、其肉に存せずして其靈性に存す。生理學は人と猿猴とに通用すべし、倫理學と神學とは則はち唯だ人の特有する所ろのものなり。人にして若し其靈性を發揮せずば、禽獸と異なるとなし、斯くて死せば其一生は即はち禽獸の一生にてありき。人類は之を其史傳の中に收めざる也。

然らば、人の不幸は禽獸となるに及くものなく、其幸福は人の中の善良なるものとあるに若くとなし。人世の大敎化、果して人を落して禽獸となさんとするか、苟くも然らば吾人は上帝の愛を疑がはざる可らず。然れども、其荊棘ある處ろ、其蛇ある處ろ、其惡鬼ある處ろ、其天變地災ある處ろ、以て能く人の道念を善導するとにあらば、吾人は之を以て彌よ、上帝の恩愛を謝せずんばある可らず。賢母其子の肉に鞭うちて其心に敎を爲す、たとひ肉之が爲めに破るゝとも、人は此の故に其母の愛を疑がはざるべし。吾人が上帝に對するの感は、之に類して而して其度の極めて大いなるもの也。

德性は練磨修達の后に成る、初めより完備すべきものにはあらざるなり。むかしアダム、エバ罪なかりしとせば、此は無智の無罪にして高德の謂にあらず。人は兩岐に臨みて其一を擇び、善惡を差別して其一方に進み、たとへば、アンゼロが十年刻苦して初めて一天使を彫ばむが如く、人は終生の苦心を以て其德を立るものなり。德とは善に生命を衣せ、之を我ものとして、我靈性の中に打建たる天國の宮殿なり。ソロモ

ンの殿堂の數年にして初めて成れるを知らば、吾人心中の聖靈の殿は決して一日にして成功せざるを知る。

而して德性の練達には、常に一の定道あり、卽はち近を棄てゝ遠を採り、肉を棄てゝ靈を採り、地の事を棄てゝ天の事を採るなり、此故に、困厄に臨まずんば憤悱せず、悲痛に接せずんば悔悟せず、貧窶に陷いらずんば靈の寶を味はふとなし。左れば、心貧しうして而して后ち天の幸を得、心悲しみて而して后ち天の慰さめを得、もし此世を榮華に耽りて人世を無上の樂地と思はゞ、彼は遂に靈地に進むと能はず、其難きと駱駝が針の穴を通るに彷彿たり。

吾人史傳に鑑みて、常に此の定道を悟る、交友知人の間に鑑みて、亦常に此の定道を諒す。蓋し人は塵世の不幸に會せずんば、天の快樂を悟ると能はざる也。此故に人の病に罹るときは、其肉の病ましきに同情を表すると切にして、而して其靈の正に道に進まんとするを賀せずんばあらず。吾人が情は世の憫れなる人に向つて泣ん、吾人が靈は之が爲めに祈り且つ謝せんと欲す。あゝ友よ、天國は近づけり、君達が涙は天の惠みの露先づ下るなり、君達が胸の騷ぎは不思議なる敎の手戶の外に立ちて之を叩くなり。開くべし、君達が心の戶を、天の光一閃徹透せんと。吾人病の床に看し、貧しき人の家に訪ふ折、心中密かに此の思ひを獨語す。

三

一個の人に於ける世の不幸の反つて天の福たるとを思はゞ、一國の上に於ける世の不運の均しく天の惠幸たるとを知諒するは易し。夫れ、國に天災地變あるは、人に疾病流轉あるが如し。則はち國民大に警戒し、邪に悔い、善に改ため、大ひに奮發興起すべきの機なり。殷の湯王の世、七年の太旱あり、湯王則はち齋戒沐浴、身を以て犧牲と爲し、桑林の野に禱る、政節あらざるか、民職を失へる歟、宮室崇きか、女謁盛んなるか、苞苴行はるゝか、讒夫昌なる歟、と。恭々しく承はるに、我等が英聖文武なる今上皇帝陛下は、天災地變ある毎に則はち齋戒し、肅然、列祖列宗の御前に御政事を再顧せしめ玉ふと。何等謝すべきの事ぞ。松方總理大臣馬を出して、尾濃の間に巡視せり、吾人は其の東西奔走の勞を謝すると切なり。然れども孤燈明滅の夜、襟を正うして天に祈るの念なくんば、手足の勞は單に匹夫の苦を以て了らんとす。一國大患の機に際しては、當局の人當に斯の如く警戒すべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

而して吾人は、巨木の下、地破の間、非命の死を果てたる人を遙弔し、且つ此等に尤とも接密せる肉縁ある人の心の歎きを慰さめ、尙ほ一般世人の大警醒を詢はんが爲めに、切に人世無常の一事に注意せんとを翼望す。

人世實に無常なり。天に聳ゆるの高樓大厦は碎けたり、巨萬の金幣は一火して燒けたり、肉愛に戀々切々たりける人は今や亡せり、人世げに無常にあらずや。此回大不幸の生ずるに先だちては寸前暗黑なりき、尾濃の人死の旣に臨めるを知らず、寢心よき秋の明方の夢に安眠したり。彼等に預察の明あらざりしが如く、吾等にも亦有るとなし。吾等亦た何の時死の來るかを知らず、人世實に無常にあらずや。

水の流れゆくを見、風の吹拂ふを見、花の落る、草の枯行くを見れば、皆な無常なり。然れども、彼等が如此く無常なるは、其常にあらずや。人世の流轉亦た如此し。吾人は言ふ、人の世は無常なりと。無常なるが故に、他に變るとなき安心の地を要するを切なり。もし夫れ之に絕望し、萬事を疑がつて落魄の裏に苦死せば、人の一生は纖芥の價値なきに均し、人は懷疑不信を以て高尙の事と思へり、疑がつて解する所なく、信ぜずして一生を雲霧暗黑の中に沒し去るは、人の恥辱之より大なるはなし。吾人は無常界の上に長久不變の天を理想す。

友よ、巨屋金幣の賴み難きは秋の木の葉に過ぐ、木の葉未だ落ちざるに巨屋金幣は皆失たり。生命のもろきは朝たの露に過ぐ、露未だ散らざるに人は皆死せり。尾濃の國に漂へる無常なる天の雲は風に拂はれて四方に飛べり、到る處ろ均しく亦無常の世なり。友よ、何んぞ之に警醒して大に安心立命の地を得ざる。神の笞杖は愛の鞭なり、吾人は痛める人に同情を表すると共に、亦天に向つて其御教を感謝す。

〰〰〰〰

被害地への救助は、品物よりも眞心を第一とす、何んとなれば被害人民は衣食を悉とく失なへり、貧しきと苦しきとには旣に慣れたり、尤も欠く所ろのものは同情なれば也。而して金錢の惠捨よりも更に大切なるは、道を傳ふるとと愛の切なる看病とこれ也。府下博愛の兄姉續々之に向つて旣に走せゆきたり、吾人は太たく之を謝するもの也。願くは道を說きて安ぜしめ、看して肉の苦を撫でよ。

文學

シエクスピアの理想

撫象子

シエクスピアが理想は最と大きやかなりし、故に沒理想なりしと云ふものあり。之より延いて樣々の誤解を爲すもの多きこそ痛ましけれ。凡そ古今のヒーローに、理想の熾んならざりけるものやある、若しありとせば、其人は夙く聞えずなりしならん。シエクスピアを擧て、ゾーラ一流の徒の如く言ひ棄つるに至ては、一個の大預言者を俗殺了するもの也。

クラムメル、信仰の故によりて燒殺さる、二百の義士、新敎を奉ずるによりて首切らる、世はプロテスタント勃興の氣運となれりける。此時に當りて、ウイリアム、シエクスピア、聖書を重んずる父母の手の中にて人と成りぬ。

父にてありけるジヨンは、ストラットフホルド、ヲン、アポンの市役員となれり、即はち一個の新敎信徒なりしと之にて分明なり。母なりけるメレー、アルデンは、其の頃戸々に藏するとは今日の如く容易ならざりし聖書をいと大切に珍藏し、膝の上に撫で育つる幼なきウイリアム、即はち后の彼の大詩人に、朝夕敎の事を說き聞せたり。シエクスピアが聖經の感化を蒙むりたるは尋常ならず、其の小說の所々ろ、極めて嚴肅重大なる節々に至りては、多く聖經より脫化したる金句名言を挿入したり。ゼヲジ、マクドーナルド氏は、シエクスピアが生ひ立ち、感化、經歷のもようを想像のまゝに最と巧みに記したる人なり、其論の末に云く、もしシエクスピアは深く新約全書を味わいたりと信ぜずば、其尤とも美なる多くの作句の意味を解すると能わずと。斯て、マクベスの中より多くの句を擧て一々例證したり。

只だ聖書を好く讀みたりと云ふの一事は、今日の如き時勢となりし折柄には左して珍らしきものに非ず、左れど、シエクスピアの時世に於て聖書を好く讀むとは、即はち厚く之を信ずるの義なり、深く其句を味へりとは、微かに靈の經驗を得たりと云ふに同じ。シエクスピアは、劇場の事務に關係し、俗人と交ると多かりけれど、其家は片田舍に置き、常に靜かなる風景を愛したり。ミルトン歌ふて曰く、あゝ自然の愛子シエクスピアと、實に彼は深く天然を愛したり。聖經と天然とは、彼が最愛せる二つの珍書にてありける。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ペンウョンソンが言へりし如く、彼は、心正直にして眞率なりき。左れど、之のみにあらず、彼は眞の意味に於て、正當のクリスチアンにてありき。其死する際に、遺言すらく、余は、わが造り主たる神の御手に余が魂をさゝぐ、わが救ひ主イエス、クリストの功德により、限りなき生命を受け得ることを望みて、且つ確かに信じて……

チャールス、ヲヅヲルスは、彼が如何に深く聖經の感化を蒙むりたるかを、極めて明らかに說明せし人なり。其論の一つに言く、シエクスピアが倫理學は、過激、僻見を除きたる眞の基督教なりと。カーライル又言く、彼は懷疑者にあらず、たゞ小細なる議論に關係せず、其全心を擧と大きなる崇拜に打任せたるのみと。

もし馬琴リチャードソンの輩のみを指ざして、理想小說家と云はゞ、シエクスピアは即はち斯る淺薄なるものにはあらざりき。彼は、かくむき出しに勸善懲惡を說法せざりき。左れど、此の故を以て、彼に理想なしと云ふべからず。只其理想の極めて大きやかなりしのみ。ノーバリスが言へる如く、實に彼の作は宇宙の如し、左れど只宇宙の如く廣しと云ふにはあらず、亦たノーバリスが言へる如く實に深遠なり。宇宙は廣く且つ深し、之を如何にとも解釋すべし。即はち之に對して有神論も、懷疑論も、永世論も、唯物說も肩隨接膝して并び立つことを得べし。然れども、余は之が爲めに宇宙に一の大攝理あることを疑ふ能はず、漠々たる蒼天もその榮光を顯はし、涯り無きの大海洋も其方向を示す。余は、天地に攝理あるとを信ずる如く、シエクスピアに理想ありしとを信ず、たゞ其理想の馬琴輩の如く切迫狹小ならざりしのみ。

カーライル、其英雄崇拜論中に云はく、苟くも智とくシエクスピアを見たらんほどの人は、彼が亦一個の預言者たりしとを認定せずんばあらず（預言者とは大理想家の謂なり）、此人の眼中には、自然は實に神聖にてありきと。史傳を見るの道眼慧敏ある、我がシユレーゲルは言く、彼は直ちに理想を指示するなし、人を其墮落せるまゝ道德上の亂調子のまゝに寫し、その總て爲す所の苦痛所行を在のまゝにうつし、その思想慾望を飾る處ろなく寫し、毫も容赦せず、一見せば凡常の諷刺家に類す、然れども一道の靈心つねに其全篇の作を貫ぬくものあり、云く人は元と尊ときもの高きものにてありき、

不德と卑劣とは其墜落せる變爲なりと、よりて初めの本心折く々發揮して人の賤き情の中にきらめくの狀、何れの作にも書現はされたり、彼が高尙なる靈性と優しき感情とは相合して、愛國的の熱心、壯嚴なる慈善、燦然たる愛の中に輝き、以て人の本心に反るの狀態を小止みなく書現はす也と。

能くシエクスピアを讀むものは、此一事に着眼すべし、深くシエクスピアを愛するものは、此一事を忘る可らず。

○先の日曜の午後秋の日和の長閑かある飛日山邊へ馬車を驅らす陸軍の上官に位し玉ふさる髯公、お氣に入りの馬丁くまと話がたきに、さま〴〵戍辰以來軍功の昔し語りあり、續いてイザといふ時にはくまの忠心如何んを試みんと、

どふだ、近頃西洋などでは、中々騷々しい噂があるが、日本に戰がある段になつたら、貴樣どふする氣だ？

くま、一向平氣に、

エヘヽ、なに、戰が有つたつて、矢つ張り、お邸にゐまさア、御前のそとに勤めて。

兒籃

小公子

第十二回（甲）

若松しづ子

ホッブス氏は子供ながら朋友と思つた人が、袂を分つて、ドリンコート城へ乗り込み、フォントルロイの稱號を取り、さほど親しき交りをした人と己れとの間をば、大西洋が隔てゝ居ると判然了解する暇がある時分には、よく〳〵淋しく感じ始め升た。實はホ氏といふは才識のある人でも、怜悧な人でもありませんで、一口に申せば、先づ遲鈍な質故、知己とても多くはなく、殊に自分の慰みを趣向する丈の技倆も有ませんでしたから、先づ新聞を讀とか、勘定をして見とかして、精一杯の樂にして居升た。勘定調さへも、此の人にとつては容易ならぬことで、チヤント合せるまでは餘程暇どるので石盤と指との兼用で、かあり加法位出來て來た、フォントルロイの居つた時分には、一寸ホー氏の手傳にもなつたとが有升た。それで全躰、人の言葉に身を入れて聞くたちのフォントルロイ故、新聞紙上の事柄を大層面白がり、革命とか、英人とか、撰擧

とか、共和黨とかいへば兩人の談話がいつも長くなるのでしたから、その去つたあとは萬屋の店が物足なくあつたのは尤もなどです。ホ氏はセドリツクが遠方へ出立した心持には中々なれず、どふしても又歸るだらふと思つて居升た。そして、新聞紙を讀んでゐると、フト向ふに例の白い服に赤の靴下を穿き、麥藁帽子を頭の後ろへ滑らかして、戸口へ來て立つてゐる處を見るとがいつかあるだらう、そして、氣輕な調子で、「イヤアー、をぢさん、けふはよつぽど暑いチ、」といふであらうと思ふ樣な心地がして居り升た。然るに、段々と月日がたち、かふいふとは一向ないので、ホ氏も餘程ボンヤリして、つまらあく感じて來升た。古しの樣には新聞紙さへ樂しまぬ樣になり、一枚讀んでしまふと、膝の上へ置き、自分の側の彼の丈高き倚子をチツト眺めてゐるとも度々有り升た。其倚子の足に見榮へのある瑕跟を見ては、鬱憂に堪られなかつたのでしたが。これこそ、取も直さず、未來にはドリンコート侯爵たる可き人が其倚子に坐つて、話しあから兩足をブラつかせた時分の紀念でした。侯爵にならふとする人でも、腰かけてゐる倚子の足を蹴る僻のあるもので、たとひ、血統は尊く、門閥は立派でも、かふいふとなどには異がないと見升た。此瑕を暫らく見てから、例の金の時計を取り出し、蓋を開けて、「ホツプス樣へ、舊友フォントルロイより、是れを見て僕を記臆し玉へ、」と書いてあるのを見、又暫らく詠めてから、パチンと音をさせて、蓋を閉ぢ、大嘆息をして、それから、席にも堪へぬかの樣に、立て戸口の林檎の箱と馬鈴薯の樽の間にたゝずんで、通りを當途もなく見て居りました。夜に入つて店を閉ぢれば、吸附煙管を啣へ、敷石のしてある通りを氣のなさゝうな歩るき方をして、昔來セドリツクが住まつて居た家の前へ來て、相變らず「かし家」と張札のある側へつゝ立つて、よく〳〵之を詠め、頭を振り、煙管をスパ〳〵と吸まくり、暫らくするとは又不勝〳〵に家路をさして歸りました。

セドリツクの出立後二三週間もこの通りにして居て、何も新しい考へは起りませんでした。元來遲鈍な質故、新しい考へを出すまでには中々長くかゝつたのでした。そして一躰新らしいとは嫌ひで、舊いとの方を取る風でした。併し二三週間もたつ中に、段々淋しさも彌増して、爲すことに身が這入らなくなる時分、ソロ〳〵新たな工風を致しましたが、これが

又此人にとつては、容易ならぬ思付で有つたのでした。その事は別段でもない只ヂックに逢ひに行かふといふヿでした。此決着に至るまで吸殻を驚ろくほどいくつも拵らへ、そして漸に、それと決着が出來たのでした。「さうだ〳〵、ヂックに逢に行かふ、セドリックの話しに委しく聞いてゐるヂックに、」と考へて、其目的はと問へば、古しを咄し合ふたら、ヂックに逢ふも結句、心遣りにならうといふヿでした。

そこで、ある日のヿ、ヂックが花客の靴を精出して磨いて居り升た時、顔はドンヨリ、頭はピカ〳〵、丈の低い、ヅングリした人が敷石の上に佇んで、ヂックの看板を二三分間もシケ〳〵見て居り升た。余り長く佇んで居るので、ヂックの方も大方客であらう、ウッカリ出來ぬと見て、ある花客の靴を磨終るや否、

旦那、一ッやりませうか

といひ升と、其ヅングリした人がボク〳〵近よつて來て、足台へ片足載せました。

アヽ、遣つておくれ、

といつて、ヂックがすかさず仕事を始めると、其ヅングリが、ヂックを見ては看板を見、看板を見ては、ヂックを見升て、軈て、

九

おめへあれはどふしたんだ

あれですか、あれはネ、ともだちに貰つたんです、小さい息子に、みんな揃へて貰つたんです、あんな子なんてあるもんか、今イギリスに居るんです、華族になりに行たんでサア。

此時ホッブス氏は例のドンヨリした調子で、

何か、ソレ、アノ……フォ……ム……フォ……フォントルロイ殿つて言つて、あとで、ドリンコート侯になるのじやねへかナ？

ヂックはかふ聞いて、刷毛を落しそくないました。

なんでい、旦那も知つてるんか？

ホ氏は暑くなつて來て、額を撫でながら、

おれなんかあれが生るときから知つてるんだ。終生の朋友なんだ、あれとおれは。

この話しをするにどふやら、心がどきつく樣でしたが、ホ氏はポッケットから彼の立派な金時計を出し、之を開いて、ヂックにかぶせ蓋の中を見せました。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

、ナア、ソラ、これを見て、僕を記臆し玉へとおるだらう」それがあれからおれへ呉れた置形見なんだ「僕を忘れちや厭ですよ、」なんていつたつけが、なに、おれは何ひとつ呉ねへつて、あとは影も形も見るとがねへつて忘れるどこじやねへんだ「といつて頭を振り」誰だつてあんな奴忘れられねへワ。

スルト、チックが、

旦那、わたしもあんな好い奴見たとがねいんです。せいから、よつぽど霊氣のある奴でス、おらア、あんな、少ちゑい子にあんなに霊骨のあるの見たとがねへんです。わたしも大變と好で、兩方から中が好かつたんです。あの少せいのとおらと、始めつからだつたんです。一度ネ、馬車の下から物を取つて遣つたんです。それをいつまでか、忘れねへです、お袋ろだの、爺だのと、こけい來ちや、どなるんだ、「イヤー、チックかへ」つて、丸で成人の樣にさ、膝からいくらもなくつて、女の若るもん茫てゐた時分さ、ていげい威勢の好い奴で、何かゝ甘くいかねへ時分にや、何か言葉でもかけられると、氣色が直る樣でネ。

それよ。それに違ひねへんだ。あんなの、侯爵にするなんて、勿體ねへ話しよ。萬屋か、干物屋でもさせて見ねへ、どんなに立派なもんになつたか知れねへワ。とんでもねへ立派な者によ、

といひながら、遺憾千萬といふ調子で又頭を振り升た。

雜錄

嗚呼悲哉

花の妹

翁あり我其相識りしはいつのころより始りしを覺ず。當時我は翁が實の年齢より更に老年なりと感じたるが如し。翁も我が年の幼きより更に小兒に感ぜしが如し。翁が家我が家と相隔る十丁餘、我學所之課了れば、出で翁を訪ふを以て何よりの樂と爲せり。翁も如何に忙しくともよろこびて我をむかへ坐せしむ。翁が家極て廣し、翁が書亭は十疊にふすま隔て六疊あり、是に筆硯の道具より其他翁が珍器皆おさめあり。尙十疊八疊幾個となくあれど、只軸物の懸りしとき見に行のみにて坐りし事なし。翁は顏のうつらんばかりうつくしき紫檀の

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

机を黒塗に青貝の茶棚の横に据へ、瓶鼎、手爐、水壺、炭とりまで供へあれば中々便利なり。花瓶にはいつも何か挿みてありしが、其はさみ方我氣に入ざれば、翁が茶を煎じるの間に立て挿み直す。翁は是を見て、花は御身の手に觸て始て雅を生ずとて喜ぶ。茶は氣に入しやと翁の問ふに、今一洗湯を冷ましてと我は答ふ。翁も我も茶を好む事甚し。翁は杉の通箱のまゝ菓子を出す、中に羊煉の乾きたるあり、大饅頭の餡はみ出たるあり、有餅糖の出來たて歯につくばかりあり。我は無遠慮に飽しのちモーいらぬといへば、又後刻出さんとて、翁は他に收む。それより春窓坐雨の題にて、分韵せんか。御身得意の蘭を描けよ、自分には蘭の名吟があるから。二人のみにては興少し、先日の詩人を招かん。詩人の來まで午食を了へん。御身の好む筍腐汁如何、それよしと我よろこべば翁直に命ず。人皆此翁に對して御前樣と呼ぶ。我は彼方と呼を常と爲す。翁我に向ひ、此間春遊の題に、御身が蝶飛知有花の五絶は内からこしらへて來樣だ抔戯る。今日は屹度私はよく出來ない、明日孟子の輪講が心に掛て。それでは御身今こゝにて講じて御覽。彼方聽て頂戴と身を躍らして本函の處に至り、彼方はいかん此間私が來て經書歴史詩文集の區別をしておきしものを、私がこれに費せし一日を空くせしよと叫びたれば、翁は不思議の顔して、其筈はなきがといゝつゝ、横手を打、そう／＼忘て居つた、孟子と中庸は人に貸た。それでは貸たと本函に張紙せんか。ナニそれにも及ぬ、貸ば返らぬものと極てるから。それなら四書揃て貸が宜し、葉本になると困る雙方ともといふや、翁は輕く我の頭をポント叩く。我驚きてふりむけば、翁は微笑せり。我は此翁に對して、一事として掩べきなし。翁も我の爲に計らざるなし。我其後東西に漂泊す、翁も居所定まらず、我西歸すれば、翁は東行、我東行すれば、翁は西寓、會せざる十年餘。この春翁病篤しと聞く、此とき翁も我も共に東京に在り。我車を驅て病を視る。花鳥を描きし金屏風を繞らし、紅白純子の蒲團に見へぬばかりに埋れて、今すや／＼と眠に就しときあれば、靜かに其覺るを待てり。頃焉翁眼を開き、我を見て驚き、どうして來た、いつ來たと舌もつれて咳に咽びたり。翁は既に眼凹み、顴骨露れ、色凄著。我は翁を見て、彼方もかくまで衰へしかといふ語は、耳に入ぬ如く、目出度の限り、御身が今日。病

そしらせて一度とは思ひしが、忙しき中を氣もまさばもと、態と無沙汰した、御身は達者で目出度……。おのが死する、事も構はずして、我が事のみをよろこぶ、翁が其顔、其聲。我胸塞がりて、ものいへば聲戰かん事を恐れて、暫らく無言。翁は自ら顔に手をあて、餘程瘦せしかと問ふ。痛く瘦せたりと答ふ。醫者は如何に申すと問へば、翁は聲低くめて、醫者は隱していふはぬが、私しはダメと思ふよ。彼方死る覺悟が宜し。醫者がかくすにも人による。私しは彼方が今の容貌ではとてもよくなるとは思ひませぬ。死ると極てよくなれば此上もなき事。死るとお極めなさい。翁は微笑して、御身が今の言葉に、御身が芥子頭の昔が思ひ出されると。翁が枕邊新聞紙堆々たり、彼方これ程大患に新聞御覽なさるのですか。人に讀まして對て其朱點のあるところのみ見る。世事を離れし此翁にして、死に際はまで新聞見るとは、不思議なりと、我開き見れば、其朱點は悉々我が家に關せし事のみ。翁が我を愛し、併て我が一族に及ぶの情は、何を以てかこれに譬いん。我涙落さじと口つぐみたり。翁はいと滿足の躰にて、私は今日の御身を見て死るはよろこばしき限りなり、御身は幼きより虛弱にてありしが、養生して長壽し玉へよ抔物語るとき、餘程疲勞の躰に見へたれば、長く話すはわしからんと、名殘惜しかりしも、別れて家に歸れり。これぞ翁と相見る最終の日にてぞある。世間また翁と我との如き交りあるか。然らば永訣の悲しみの如何をしらん。若あらずとせば、獨り我のみこのかなしみを知るのみなるか、嗚呼。

白標之筵

（万國婦人禁酒會は別に白標黨と稱す是を揭ぐるは其機關なる「ユニオン、シグナル」の近刊紙上より譯出せしもの也）

筵のはしがき

こゝに禁酒の爭中に白標の筵を開いて讀者を待つ所以の者は久敷兵營の間に在て經驗を取れたる人々より基督教徒婦人禁酒會今後の戰法に付き新將卒に教誨を得させん爲也。故に老成なる會員十名を撰びて左の五問の答書を求め、第一には貴女一身上並に宗教上の經驗に付及び法を重んずるの見解に付て白標より受けし感化はいかに。第二には白標が貴女交遊の情を高めし事いかに。第三には人を助くる時に白標の貴女を助けしはいかに。第四には白標が貴女の家族を進歩せしむる事いかに。第五には白標は貴女の愛國心を勵ませしやいかにと問ひ、又答案消息などにて訓戒となる可き者を請得たれば、其返書を具へて以て讀者を饗せんとす。筵中の人愛の大半を嘗めこや。

○答書の一

靈性智識及社交道德の上に利益多き事　ウイラード

宗教について實際の經驗を得たるは白標さぞんト申し候。身心靈肉の心配よりもキリスト教にて朝夕にせまる世の中の病を救ふがたに心せかれ候まゝ、日曜のエスをなほざりにはいたさす候へども、月曜のエスをさらに大切におもひ申し候。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と、これも白標の徳にござ候。法についてはおごそかに思ふ心のくわゝりしと一入にこれあり。人のつくれる法と申せども、自然のうちの靈妙なるおもむきを得て、天道の一端にかなひたるあかつきには、世のためと相成るを申すまでもこれなく候得ば、天命をゝそれて人をまもり法をつくらんこと、わすれてかなふまじく候。おのれ儕が法によりて禁酒の業をくはだて候も、又は世に改良と申候ものも、根はみな天をゝそるゝゆえにござ候。人にまじはるの情については、今よりかんがへ申し候に、以前は淺墓にこゝろえ居り申し候、ひとゝわれとのあいたいの關係に、神と人情を思ふこゝろの深く相成り申し候こと、他々のとても白標におよびがたきところにこれあり候。私こと友情の念の絕したためしはこれなく候得ども、白標に加入いたし候てより、さらに熱情のもえあがるほどにござ候。こどもおとなをとはず、白標のかげの見ね申し候節などは、おのれ儕が理想國の人にても逢ひたらんように、これも心のおろかには候べきも、ともにうれしく覺え申し候。人をたすくるおりおりに、白標のわたくしを助け候ことは、かずかぎりを知申さず。遠土の人々より、いろいろと申し越し候ごとに、道につくすのたらざるを覺え、白標の身にたよりと相成り候こと、子にふたりの母あるが如しと、愚妹もつれづれ申し居り候。白標はまた家內のものゝこゝろをも高むるがゆえにや、一家和樂のもとひをひらきて、母こともすでに老年に候へども、日頃たのしきこゝろをかたりいで、すべて禁酒の氣は、家にみてりとも申すべきにや、以前にすまひ致し居り候よりは、靈性ちしき、社交、道德の上にて、一家の進步に白標の恩義ひとかたならずと存じ候。更に白標は、愛國心をませしやさのおんたづれ、はたくし儀、はじめ學校をいでし頃、世は南北のせんそうにて、かきみだれし折柄なれば、避病院の看護婦ともなりて、傷兵をいたわらんとぞんじ候處、わかげの不心得をいたく兩親よりいひきけられ、殘念とはぞんじ候ひしが、其より禁酒業のひごろ報國のこゝろざしにかなふを見て、以來白標のために身を竭し、今日までもかはり不申候。されば、白標のしろき光にてらされて、天の大圓をうかゞひ見るに、人のため、國のため、はた世のために、つとむるは、則ち大道に入るの門とぞんじ候へば、これは更に申し上るまでもござなく候。と候へば、白標をゝび候こと萬人のために、楯ともなり、つるぎともなり、浮世妄念の夢を破りて、理想の窗に眞理のこえを聽くのなかだちと相成ること、誰もかわるまじくとぞんじそろ也。九月二十一日

○答書の二

個人と國民のめぐみの為にし　パーンス

つれづれ白標は個人をとはず國民をとはずめぐみの為にしとぞんじ居り申し候。その白標の白といふも無垢の心にかよひて清觀に因なきにあらず。天の國にむすばるゝ白繩のはしともなりて、たへせぬおん惠にいるとを明暮いのり居り申し候。

○答書の三

聖架を負ひて天の福に入る事　アークリバルド

一むすびの白標はあさはかなるとの樣に見え申され候得ども、その音なしの水瀨にたつときは天命のそゝぐ勢ひなにものも柵とはなりかれ申し候。わたくしがおさなき頃より修めたる教育といひ家庭の感化といひ萬にひかへ目を旨といたしたれば、婦人禁酒會などゝは全くうらおもてにてこれあり候故に、この業に思ひ立ちし始には、自分ながら偏見の森にてもまよひ居るやうに覺え、こうまんの杖もおれて、たゞほそき自信の道をちからにたどり申し候處、思はずもこんこんの命の河邊につき、うきほだしの雲霧も不羈の河風に吹きはれて、その波に浮世のはらわたをあらひ、其より舟人のむれに入り申し候。凡そ今の世女子の友情と義心とを發達さしむるに白標ほどふしぎなる力あるものはこれなく候。これはまた高き道念によりて法を重んずるの心をまし天の命と人の約とをたがへざる正しきおもひに基き申し候。いかなる醉漢のおのれ儕をあざわらひ候とも、內心にはこなたの愛情を存じ居り申し候得ば人を救ふに心をつくし候上は、夫につれて白標の身の便と相成る事一方ならずと覺え申し候。まして一家を淸むるには白標の流およばぬ限なく、白標を帶て行く女子に赤心報國の念ふかきキリスト信者ならずと云ふ者これなく候へば、ゆくゆくは百川のあつまれるためしともなり、こゝに愛の靈波のそらにうちてエホバの光のおん影もうかび候はゞ、千代八千代の命の礎とならんことを願ふになむ。

○答書の四

私鬪に非ずして神戰也　プィービ

前略、父母のなくなり給ふ折といひ、家內によからぬことあるを拂ふ折といひ、又は世の塵のわづらひを去る折、社交の生涯の根を養ふ折、年と共に來る人の心の轉變の折、友となり助となり常に女心に天の命をみたすものは婦人禁酒會とぞんじ

候おの〳〵が經驗におん覺あるべきも、うつり來りうつり去る世の中に故を温ねてあたらしき道に入ること、何事も然るべきためしに候へば、世にかよはき女風情を禁酒の旗のもとに集めたまふ神の御心をなおざりにいたし、いつまでも暮きおもひに沈む可き期にはあらずと覺え申候。さればおのれ儕は神前にひざまづきて何をなさしめんとし給ふやと問ひ奉るべき者なるを、禁酒會のために酔覺と眠ふは私闘にあらずして神戰なりといふとを忘れ申し、思ふまゝに振舞ひ候とたゞ〳〵これのみを愼みたくぞんじ候。そも〳〵女の家をも身をも眼前の小事にはなれ、聖旨のためにすゝんで陰府の門をたゝく事、なみ〳〵の決心にては出來まじく候へば、宗教の經驗といひ、交友家族の上といひ、白標の德一方ならずと思ふにつけても、かれもこれも無限の運命にかゝることゝ覺え侍りて。

〇答書の五

酒鬼を追ふ　ドウ

六十年の間、禁酒の上にて大方の經驗をつみし少き頃より深くこの道にこゝろざし申し候は、人の身を問ず心を問ず酒鬼を宿して一命にかゝわりあること、耳心の明瞭に見え申し侍れば也。

〇答書の六

天くだりて人の靈を救ふ事　ウッドブリッジ

すぎにし年月の今更にしのばれ候も、かゝる身を以ておのが理想の天に入る可き道のありさは曾てのぞみ難きことゝ悲み居り申し候處、其頃婦人禁酒會のくわだてあるを聞き甚ぞみづからが思ふ所ならめと、頃日心中にわだかまれる迷執の雲を拂ひたりしに、歡悦こも〴〵胸にさゝうき申しそろ。

"I had had my turn,
Had been light from the darkness of the clod,
And for one glorious moment
Had been the brightness of the skirts of God."

Bryant.

天くだりて人の靈を救ふとは、あの世のことにあらず、今眼前のよろこびにて候へば、常に白標の志を忘れざらんとて朝夕いのりをこむるになむ。

隨感

ひさご

芝浦の月見

月夜よし夜よしといはん人もなし、いざこなたよりとそとて例の父君とゝもに、この頃心地なやましく過し玉ふ、おち君のもとへ行きそゝのかしいざなひて、芝浦の月見んと立出ぬ。高縄のある家の樓にのぼり、夕飯などたうべ待うちにこがねなす雲の彩色、にしの方に消失て大空むらさき立くらう成しとおもふまに、いつしか波に月の光きらめきぬ。うちあふげばまどかなる月の、叢雲にかつかくれ、かつあらはるゝけしき、いとおもしろきものから、隣なれる坐敷の聲高なる噺、聞も耳けがるゝ斗の言葉ともに、心あはたゞしく、母君の待居給ふらんなど思いそがれて、母君へとおち君の得さし玉ひし一折持ちて歸りくれば、おもひし如く、母君うれしげにまちむかへ玉ひて、縁側にむしろ敷まふけ、茶など入れて玉ふを、兩親の間にてのむ心地、けふのつかれもなく、いかなる憂も忘ん斗なるに、月かげ中空にのぼりて、手洗鉢にうつり、松の梢のかげそもてあそぶあど、かの見しに似べくもあらず、おもしろし

何に遠くまで月見になど思ひ立けん、げにかの道を遠きに求むるてふもかゝるためしならんと、はづかしくかつはくやしかりき。

我やどに見る月かげはよそよりも
光さやけき心地こそすれ

如何にして人を知るべき

方寸子

内なる心は必らずや外と色に現はるゝ故に人を知らんと欲せば其の行爲を見るに若かず。されど、人の胸中、かの五臟圓の看板の如くんばイザ知らず、源の賴朝の如きは喜怒色に形はれずと云へり。餘程に達識の眼光なくんば、複雜せる行爲の機微を見て、其人物を知らんこと最も難しといふべし。

今や、人物の評論追々と移り來りて、孔孟の君子風好景氣に騰らず、西洋かぢりの紳士通、文筆社界の如才子方、燕趙悲歌の壯士社流は、猶更らのこと、只だ己のが磊々放大の心事の程、人をして端睨し得ざらしむる僞英雄ばらの、横行の時代將に來らんとす。嗚呼、僞英雄の此處に横行する、何處にか理想の需要なからんや。天台春深ふして花に恨みあり、武陵水陸たかにして津り通ぜんとす。此處には切々焉として金蘭の契りを得んとを望むの人、彼處にはホーム、スヰート、ホームを念ふの人、希くば、誤らるゝ勿れ、誤る勿れ。

昔し、釋迦如來嘆じて云はく、外面菩薩の如く内心夜叉の如しと、されどこれ婦人のみの實相とせんや。若し夫れ斯かる毒美人ならんには、如何でか風采に菩薩と魔化するを得んや、只だこれ賴朝を眞似ぶ僞英雄、好人物以上の者、或は、己れと同等若しくは以上の、者に至りては、如何にして其の人物の程を知り得べき。

凡そ、人を知らんと欲せば、其の空虚にして懸値なき、無我にして正味なる、本體を見るに如かず、只だ恐るその本體の見得ざるとを。蓋し、山水夏月の自然に對しては飄然として無邪氣たらざるはなく、嚴肅にして優温なる人物に會ふては中心自づからムツ〳〵として我を忘れずといふとなし。偉人の眼光に射られては何ものも隱るゝと能はざるべし、されどこれ偉人が洞察する眼光の耿々たる故のみにはあらず、實は出會ふ處ろのもの皆な茫然われを忘れて本體を現はすが故なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

されば、人物を知るの最乗は、己れ先づ偉たるに如かずと雖も、これ尋常漢の得て及ばざる處ろ、而かも之を實行する必らずや其の人物に直接するの止むを得ざると也。若し夫れ、間接にして而かも實行し得べき、有効にして而かも簡易の秘訣ありとせば、惟ふに、先づ其の友を見ると、次ぎに其の友との交情の性質如何を知るの常法あるを信ず。

只だ夫れ、其の友を見る必らずや彼れが最も好愛親交する處の者ならざるべく、而かして亦た、異性の友を見んよりは寧ろ同性の友を見るを要す。例へば、男子を知らんとを欲せば其の女友を見んよりも先づ其の男友を見るべく、女子を知らんとを欲せば其の男友を見んよりも寧ろ其の女友を見るに如かざる也。看よ、男子の女友に對する、女子の男友に對する、何んぞ夫れ瞥瞥然たる、されど、女子の女友に對する、男子の男友に對する、何んぞ夫れ無愛素なる、斯くの如きは人情の殆んど止むを得ざる處有りと雖も、これ決して敬愛すべき人物にあらざるを知るべし。ア、、ダビデ、ヨナタンの友誼如何にして斯は淸かりける。蓋し、眞正の友誼は互に相知己たるの間にのみ成立つ也。甚太しい哉、同胞の相知らざると。

小説

無想劍

第五回（結尾）

悟りたる今宵刹那の無想の月

暗光子

百とせ經りし杉谷の森暗く魔王も搖ぎ出るといふ叡山の夜半の空、古し梢より輝く星嚴かに漏れ、黒み立つ百鬼の影も、白き怪物の巨大かに立つも恐ろし、月の光りは幽かに木立を撫で朦朧たる狭霧は山をかすめて景色を靜かに動かすも淋しげなり、虫の耳語も聴ゆる頃怪しき聲唸りて枝のザワ〳〵するさへ魔界の思ひす。

寂寥として聲もなき苔蒸したる八幡の祠に、默然として黒く蹲踞る怪物ありけり、鬼かと見れば形似ず、人かと見れば動きもせず、死せるに似て眼瞪り、活けるに似て呼吸も聴えず、山氣冴えて膚を犯すも此の妖怪にやと思ふ程なり。此怪物突然として身を起し、一聲の叫びと共に閃ける電光を放ちて躍り出たる樣見れば、之れ引抜きたる白刃なり、早くも鎮まる時を見れば白刃は元の鞘におりて傍の松の木切倒されぬ、暫

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

らく見詰めつゝ又何やら腕拱きてありしが、眼つぶりて右方左方を歩み居り、折々に引抜きては切着る立木の幹に、聒と見開らく眼の光りは赤く上づりて物凄さ言ふばかりなし、人の跫音さへ響きわたる丑滿頃の山路なれば、鋭き箭聲は谷響に鳴りて猿の叫びの如く、時々倒るゝ木立の音は魔魅の所爲かと思ふ許りなり、これぞ風間俊吉郎が一心凝つたる魂魄の形骸にてありき。

嚮きに俊吉郎は果敢なき無情の心に打たれ、靜江が大悲哀の名を墓に熟々見たりし時より物言はぬ人と成れり。或時は風に向つて獨り嘆き冷然としては冷笑ひ、奮然としては地を蹴つて罵り、每夜叡山の八幡に參籠することいよ〱怠らず、果ては食を斷ちて家へも歸らず、何やら折々呟やきては胸打て誓ひ、汗も血になり、生血も煮沸て、一念は岩、赤心は火ともなれよとの一生懸命、何卒して必勝の極意なる無想劍一手を觀悟せんとの祈願なりき。滿願の日も近付きたるに少しも其意分らず、思ひ詰り考へ凝り、身も疲れ氣も衰へ、忙然として吟ふほどに、凝ッたる心念の『俊吉郎』といふ我れはほと〱孤影と成り、心はいつしか吾身を拔け出て杉の梢に半ば懸る月魂の傍に遊び、天外の大明光に心核を撲れて早や地上の人にあらず、忽然として眼中杉の森なく八幡の祠なく、叡山もなく月もなく、夜もなく又我れも無し、蹌踉たる孤影往く所を知らずして動き、今や無何有の天外に遊びて天と人と交るの時なりける。

倏然として響きあり、乾坤も碎くるばかり地軸も奈落に陷るかと思へば、俊吉郎の身は足蹈み外して崖下に轉び落ち、始めて我れに返れども猶ほ夢にありて現に覺むる如し、

「風間殿、氣をたしかに………利たか」

いつしか潜び來りけん、介抱に餘念なき老僧が誘ひの活一手に、俊吉郎は甦り心を丹田に沈めて回邊を見れば、身は草の中に倒れながらも白刄を拔き持ち、小太き杉の枝、切口美事に落ちてあり。偖は吾れ足蹈みはづしたるも知らざるに、其時何の思案分別もなく吾身に遮る枝を拔打ちに爲したるか

「コレだ無念無想の劍法………弓箭八幡、今ぞ祈願成就したり、忝し最早遁さぬ牧田龍馬ッ

血相變へて走りゆかんとするに、容子量りかねて暫し默然たる老僧は急がわしく引止め、

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

「賤江が和殿への遺言あり、待たれよ、コレ待たれよと申せば………

潔士が心の底に人知れず刻み込みたる意中の人を、痛ましく思へば思ふ程其讎憎らしく、妄執安んじやらずば男にあらずと勢ふたる、他人の仇は吾身の仇より一層の思ひまして、血を吸ひ骨も嚙砕かんとの至愛至誠の鐵石心、止まり難き樣なるも『賤江』との一言に稍々躊躇ふ色見ゆれば、老僧は透さずに語を繼ぎて

「讎討ちは堅く思ひ止まりたしとの遺言ぞ

俊吉郎は振返りて怒りの惡聲調子も鋭く

「ナント………今更ッ

「和殿の心願は拙僧能く知り居るぞ、命かけて賤江へ盡す男の胸、天晴〳〵

決死の眼も愕きの色見へて、肩で呼吸する熱胸、百廻、老僧はさてこそと聲も穩やかに

「牧田龍馬が賤江の讎といふ由、拙僧も和殿より密かに聞き居れば、屢々彼れにも道を傳へありしに、此頃全く罪を識悔して今は善良の働き手に成り居るぞ

龍馬は日外勝負の都合にて賤江に打込まれしことありしが、俊吉郎とは優り劣らぬ猛士にて、しかも眞劍の場數累ねしゆへ、偖こそ俊吉郎は無想劍一手にて打果さんと精根を凝らしたるにてありし、斯くまで思ひ込みたる一念なればなか〳〵に止まる樣もなし、老僧は一聲疾く

「讎討ちは人倫の不義なるぞ

「ナント奇ッ怪ナ………其譯言へ

老僧は打頷きて言葉徐かに

「言ふて聽かせ申さん程に落付きてアノ祠まで共に來よ

俊吉郎は承諾して稍々動き始めぬ。

山靜かにして太古の如く、山に入る人自から素樸と成りて天の人に近し、淋しき祠の扉は僧俗二客を籠めて半ば閉ぢぬ。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

月は明けく照らして詩詠むことさへ隨意なるべし、僧が穩やかなる聲音淳々と漏れて、始めの程は鋭き詰り聲も烈しかりしが時と共に靜まりゆき、二時も經て夜虫の聲さへ幽かに聽ゆる頃、二人は穩かに打笑みながら伴ひ出でぬ、

「逢ッた、法師と思ひしに………

言ひつゝ俊吉郎は見返へれば、尊げなる眉に白き光り輝くばかり、威嚴ある内に微笑、温かき眼光に物言はして、莞爾とせし老僧の胸には、月に輝やく十字架半ば現はれて見ゆ。

月は西の雲に傾き盡し籠の黒赤く色ぐむ東雲の山霧に、俗腸を掃はして悠然と歩む新たなる俊吉郎は

「入道の極意も武道の極意も悟りて見れば澤庵の歌耳新たに思はる、雪氷あめやあられとへだつれど落つれば同じ谷川の水？

老僧は眉を披きて聲も爽やかに、

「極意とは己がまつげの如くにて近くあれども見付けざりけり、花も實もある天晴武士じや、戀は圓滿、道は極意、老ひ朽た此柳生小太郎も、壯んな和殿の風采には萎縮た腕も摩らるようナ

魁の鴉一羽、無想無心の羽音殘して、朝霧に消えゆく影閑かなり。

（大尾）。

カーライル曰く、人其爲すことを知り初めて則ち病ありき。蓋し、無想を重んず。

理學

○地震及地皮の移動

吉田のぶ子

地震は地皮を經過する波動にして其傳播する有樣は池水の面に石を投ずるとき生ずる波紋の如く圓形を爲し、其中心を遠ざかるに從て震動漸く弱くなるなり、而して其原因は未だ明瞭ならずと雖ども、錯雜にして種々あるが如し。我國に於て屢起る地震の原因は大抵三種に過ぎずと云ふ。第一地層の斷折に由て起る地動、第二地殼の移動上下するに當り一地方自重の爲に陷るに由て生ずる震動。第三火山發動の際供發する鳴動之なり。斯の如く陳ると雖も普通天文學上より憶定せし地史を知ざれば了解し難き所あり、因て今其概略を說明せむ。元來此世界の構成せられし順序を考ふるに、原と此地球は一個の火團にして宇宙を廻轉しつゝありしが漸々溫熱を失ひ熔液躰と變じ、更に冷凝して固形の外皮を生じたり。然るに地球は猶冷て止ざるを以て漸々收縮し外皮に縐褶を生ずると橙子の日數を經るに從てシナビル如く、爲めに地上に埼嶇を生じ、地皮又更に隆起陷沒して今日見る如き山嶽海洋の濫觴を起せ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

しなり。
其後幾億万の歳月を重ね外皮の厚さ四五里に達せしかども內部熔液躰の動搖尚止まず、從て地皮も共に移動すと雖ども其動勢徐々なるを以て人の之を感ぜざること猶ほ日常地球の上に棲息しながら其廻轉を覺えざるが如し。然れども少しく意を用ふるときは悟り得ること難からず、今我日本國に就きて其一例を擧げんに我國の地勢は五幾八道中いづこに至るも中央は山嶽起伏し相並列して南々西より北々東に向ふ而して此山嶽より左右に別れ一方の地は漸々沈降し、一方は隆起しつゝあるが如し、故に日本海に瀕せる地即ち東山北陸山陰諸道の沿海の國々は信濃川を除くの外更に大河なく懸岸絶壁道路嶮峻にして海水其腰を洗ふ昔し土地の陷りしや疑ひなきが如し。彼の八百年前源義經が主從難を逃れて到りしと云ふ加賀國能美郡安宅の關の舊跡は海底に沒し當今の海岸を離ること一里許に及ぶ。其他出雲の宍道湖羽後の八郎潟いづれも皆土地の陷沒して成りしものなるや疑なし、之に反して太平洋南岸即ち東京横濱等の地方は土地漸々に隆起するもの丶如し。其故は北岸に反し土地平坦にして淺路多く水面より高きこと十數尺の所に水の穿ちたる洞窟あり或は蛤蜊を含む海砂の地層あり、又海苔は鹹水と淡水と混合する所に多く繁茂するものなるに二三百年前淺草邊に生ぜしとの說あり、然らば即ち此頃にありては海水淺草邊に達せしものなるに當時は遠く退きて品川に至りしならん之等は皆等しく南岸の高起せし證なり、之に由て是を觀れば地皮は漸々移動しつゝあるや明かにして此移動の餘波時々地震を生ずるなり。

且又上に記する所の地史に從えば吾人は內部に熱したる溶躰を充したる土製の甕の上に住むが如し而して此甕は斷えず冷却し其軸漸々短縮するを以て表面には襞折を生じ或は山嶺を構造し或は地摺り山崩裂開を起す然るに地皮は彈性強きを以て之に由て生ずる所の鳴動を四周に傳ふ、之ぞ即ち吾人の恐怖する地震の原因となるものなり。故に地震は我地球の內部盡く冷凝して月の如き老星と成り終るまでは時々起るものと覺悟せざる可らず。今日休むとも復起るときあらん、一個の大安心を懷くと肝腎なり。

批評

○基督のすがた

近頃の譯書中、靈性の上に益を與ふるとの多き此書の如きは少なし。植村正久君が譯述せらるゝには極めて適當の原文ならんか。此度發兌したる後篇は前篇にまさりて文章一きは麗秀なり。大躰の立論の美にして優しきは再たび言ふとを要せず。たゞ幾千かの例證を擧て示さんには、

人の世にあるや事を成すべき十二時間あり、其終らざる間は天の攝理の陰に安然として濶歩するを得べし(一六八)。

美術的に之を言へば暇なきは天才に乏しきなり、蓋し天才は少時間に事を爲して能く其機を外さず天才なきものは無限の時に於ても之を成就すると能はざる也然れども道徳上より之を言へば暇なきは德義的の氣力に乏しく智慧に於て缺くる所あるに起因す(一七一)。

基督の受け玉ひし刑は近代の死刑に於けるよりも當時の人の一層恥とせし所ありき然るを基督は胸に劍を刺さるゝの思を以て之を傍觀し居たる己が愛母を目擊せざるを得ざりしなり(一八〇)。

蓋し貧民の破ら家を訪問するの途上には其摸範前例たりし聖足の跡あり病み亦歎める者の身躰に觸るゝは即はち主の手及び脇に指を接するものなればあり(二一二)。

人もし神を動かすの力なければ人に對しても亦力なし勝利は人に説くの間に獲らるゝが如くなりと雖ども其實は已に之を人に代り心を痛め切に神に祈りたるの地に於て得置かざる可らず(二三一)。

凡そ最善なるもの其坐に臨みたる場合に於て感化服從の功を見ざる時は反つて反對の結果を現出して人の奥底に潛める野獸を奔馳せしむるものなり(三二五)。

かゝる情理は今の日本に多く聞かざる所ろにして、而して之を味ふとを得る所ろのものも亦乏し。左れば其聲をいよ〱高くせしめずんばある可らず。

○白河樂翁公と徳川時代

三上參次君の著にして、史傳に一新躰を創めんとの志に成れり。寛政の賢相、松平定信公を擧て、智德文武兼ね備はりたる徳川時代の武士の摸型を寫し、傍ら以て幕府當年の形勢を

側面より映ぜしめんとす。此躰の史傳の書きざまは、人を感動せしむると多くして讀むに甚はだ味わひあり。西國には其類多けれど、我國には先に福沚氏が島津久光傳ありし外多く聞かず、田口君が近頃ろ史海に續々論じ出さるゝもまた之に同じ、近頃漸やくにして此類の研窮者多くなれるは、祝すべきと也。

一日後漢書を讀み陳蕃が慨然として天下を廓清するの志ありと云へる所に至り、覺ずはたと膝を拏ちぬ(八)と。樂翁が傳を序するに先づ此事を記したるは、極めて味ひあり、翁が一生は實に此抱負より出ればなり。卷の末に、定信の好尚は甚はだ高くして何如なるとにもあれ物にもあれ實用を旨としながら、然も俗氣を帶びざるとは眞に怪まるゝ斗なり(一九〇)と結びたる更に佳し、此語よく翁が一生の好尚を盡すに足る。又翁が人と爲りを畫現はすところ、引證務めたりと云べし。但だカラクターの表相彷彿として未だ分明ならず、寧ろ東洋史家の常套に陷いるもの少なからぬを惜む、殊に内名に德川時代を顔したるほどの跡見えぬこそ殘念なれ。たゞ次の卷に八代將軍を傳して之を精しうせらるべきとと信じ參らするの外なし。辭職の章こそ、定信が品性を明らかにする屈強の段落なれ、然るに著者斷案を下すに細心深く、遂に確たる定評を與へず。何故へ此處に、

嵐をば松の梢にのこしおきて
　　こゝろ靜かに散るこの葉かな

の歌を擧げざりしにや。文學の章に至り、花月草帋の評は壓卷の見あり「讀者をして覺えず襟を正しうして身を省みしむると多し」とは、一種の眼識あるものにあらずば、此草帋に呈寄せざるの評あり。余常に思ふ、今に於て和文を學ばんと欲するものは、先づ花月草帋より入るべしと。(語格語法の誤まりあるは、之を正すも可なり)。著者が、此草帋に對するの評を見て太たく喜こぶ。

新誌一覽

○國民の友

前號に「女子教育の事」の一篇あり、近來になき穩好正當の意見なり、而して文も亦た簡潔の美あり。排斥的教育、又は實用に供する教育などを不可として云く、吾人の見る所を以てすれば、女子教育は人類としての女性の圓滿に發達するを以て其標準と爲さゞる可らず、苟も是を以て標準となす、以て其妻たるべし、以て賢母たるべしと。世上漸やく吾黨の友の出るを見る。祝すべき也。

時事

○平地激變

靑天の霹靂たるに比べて、一層の驚愕を現ぜしは、近日の大地變なり。家を失ひ、産を滅せしものは更にも言はず、一身の生命を巨木の下に亡ぜしもの、辛くも命を繼ぎて其親其妻子を失ないしものは、悲痛それ幾干ぞ。同情の涙なきにあらず、たゞ涙にて足らざるとを覺ゆ。

社員出發　慘況を視察し且つ相當の務を獻じ並に歸京の上同胞兄姉に計る所ろあらんとて、社員、星野愼之輔、河合春水の二氏は急に被害地に出張したり。

○義捐金

各新聞紙既に夫々義捐金を募集せり、もし金を寄せんとする人あらば願はくは便宜の社に寄せよ、吾社亦之を介するとを辭せず、亦吾社に直ちに托せんとする人あらば之を預かり置き、他日尤とも相應じたる用途に向つて合すべし。

○安んぜよ

死の來るは何人も知らず、啻に尾濃の人の之を知らざりしのみにはあらず。今や安然床上に樂臥する所ろの人も、死の招きすでに其次呼吸の中に迫れるとあしと云ふ可らず。左れば、人よ、今ま急かに驚ろくとなかれ、驚ろくは可なり、之により て其業を放擲すると勿れ。今回害を被らざりし人は、速に其業に勵むべし、而して今ま艱む所ろの人に向つて善を盡すべし。議員諸公願はくは勉めよ、内閣諸公願はくは勗よ。

○全國廢娼同盟會年會

約の如く昨六日に年會を開くべきに、大地一震、各地の委員上京しがたく、殊に、此會に是非とも臨席して本年の縣會に全勝を博せんとしたる愛岐兩縣下の廢娼會員は俄に上京出來ざるにより、年會の報告及打合を來廿三日に延し、大演說會は、今明の兩夜本鄕中央會堂に於て催ふすとありぬ。

○七日夜七時開場學術演說

主會。　加藤勝彌。小島官吾。巖本善治

辨士
佐々木笑止郎。服部綾雄。イービ。加藤勝彌。
下飯坂權三郎。植村正久。押川方義。田村武二。

○八日夜七時開場政談演說

主會。　片岡健吉。湯淺二郎。　平野彌太郎

辨士
石島良三郎。靑木秀二郎。根本正。
島田三郎。平岩恒保。江原素六。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女報

可愛子 編

●大地震に付ての女報（其一）

●明治二十一年十一月二十九日朝の地震は、安政以來の大地震なりといへり、岐阜、名古屋の地方殊に甚し、慘憺悲哀の光景、誰か爲めに斷腸せざらん　皇天上帝よ、仰願くは不幸の人に特別の御保護を垂れ給へ。

●皇太后陛下震災を避けさせ玉ふ　去月二十八日の強震に皇太后陛下は大に驚かせ玉ひ、杉大夫の奏請を容れさせ玉ひ、女官を召し具して震災を避けさせられ御座所なる皇宮内御常御殿の東南方に當る皇殿に避寓在らせられ、同日は終日同殿に御靜居在らせられ、平常に異ならず御健全の御樣に承ひ奉りぬ。

●赤十字社員出張　同社醫員の岩井禎三外一氏は看護婦三名を隨へ愛知へ、事務員小松忠重氏は醫員二名看護婦六名を隨へ岐阜へ、何れも去月廿九日綱帶藥劑諸器械を携帶し出發したり、右は兩縣震災の報あるや院長橋本綱常氏直ちに宮中へ伺候せしに、賢き御邊より醫員を派出せしめ厚く救助せよとの有難き御命旨を蒙りたるに因るといへり。

●御救恤金　皇帝皇后兩陛下には岐阜、愛知兩縣下非常の震災を聞し召され、取敢ず去月三十日御救恤として各金三千圓宛を賜ひし處ろ、罹災の慘状追々聞召され深く憫然に思召され、三十一日更に各金一万圓宛下賜せられたり。

●聖恩の優渥に感泣す　兩陛下御救恤金下賜の御沙汰に接し、知事以下聖恩の優渥に感泣し其次第を各所に掲示一層救助事を盡するに至りたり。

●皇太后陛下御救恤　皇太后宮陛下には、地方震災被害者へ御救恤金を下賜あらせらるべき旨仰出されたり。

●行啓御延引　同上京都發）　皇太后陛下の奈良及大坂行啓は、暫御延引の事に内決したる由なる。

●外國婦人の義捐　横濱居留地外國婦人慈善會員の諸氏は、去月三十一日會員二名を震害地へ出張せしが、廣く義捐金を募集する見込なるよし。

●宮内女官の義捐　宮城の高等女官一同より金五百圓、香川皇后宮太夫より金百圓を義捐したり。

●基督信者　横濱の五教會堂の信徒は、目下尾濃兩國の震災に就き應分の義捐金を募集せんとて奔走中。

●貴夫人の義捐　今回の震災に付きて、[illegible]田夫人、岡田夫人を初めとし、彼地の人民へ義捐せられたり。

●震災救恤慈善會　去る三日午後二時より木挽町厚生館に於て、震災三[illegible]學校員諸氏は尾濃震災救恤慈善會を催し、左乙女豐秋、不破[illegible]井時雄の三氏、及び當日は大岡育造氏も出席し同氏が現に震災地に於て目撃されし慘状を演説し、其外音樂、圓朝の落語等の催しあり新聞[illegible]子並て一日の所得を義捐したり。

●女學生の拜謁　京都在住華族の女學生鍋原昭子外四十三名（内三名不參）は皇太后陛下の御召により過日石野華族會館分局長之れを率ひて參内し、御學問所御廊下に立列して謁拜仰付けられ、御思召を以て書籍の料金五圓づゝを下賜せられ、御表の諸御殿を拜觀の上退出したる由、又當日女學生一同より御交肴一折を獻上したる由。

●下賜金　皇太后陛下には、特に思召を以て、京都織物會社へ金百圓、川嶋織物工場へ金二十五圓下賜せられたり。

●皇太后陛下の行啓　同陛下には去る四日京都御出發、奈良大阪神戸へ行啓あらせらる。

●陸軍演習に貴婦人の縱覧　此度の演習には、皇后宮陛下にも御行啓あらせ玉ふと承りしが、御故障ありて御見合となりしが、都督宮殿下の御息所のみ御陪覽あり、之れに從ふ貴夫人は土方夫人、花房夫人、鮫島夫人、山縣夫人、上野夫人にて外に二三の侍女なり、此貴夫人一隊常に　聖駕の附近にて陪覽ありしが、其硝烟砂塵の中に立ち兵馬縱横の間に奔走して少しも倦怠の色なかりしは、何れも人の注意を惹きたり中にも二十五日の如きは尤も際立ちて見えたり、世上婉娩是事とせる嫻雅風の女流少く反省する所あれ。

●又一美談　廿五日南軍激戰の際、貴夫人隊は宛かも我軍猛進の中間に介りしに、一下士あり來りて避けよと告く、附隨の中尉某氏「進行か」と尋ねしに、下士は只「然り危い」と答へたるのみ遠慮會釋もなく兵士と共に進驅し來れり、中尉は心配の餘なりしに、此時御息所は從容として此所邪魔になるべしとて自ら率先して傍の草叢の中に飛入り之を避け玉へり、此下士、貴婦人共に軍禮を知れりと謂ふべきか。

●芝玉女學校音樂會　去月廿五日神田錦町錦輝館に開たる同會は來館者四百餘名ありバイオリン清樂、合奏其他狂言、薙刀使、手品等ありて散會したるは五時過なりき。

●慈善音樂會の延期　去月三十一日催ほす筈なりし大日本婦人教育會の慈善音樂會は、今般震災の爲め延期となりしが、右は本日開會するとの事。

●大日本婦人衛生會例會　は同じく本日午後一時より開く。

●婦人慈善會　は來る十二、三、四の三日間山下町鹿鳴館に開會すと云ふ。

●娼妓賦金收納の出願　品川新宿板橋千住の四宿同業者は、現在の税を半額させんことを出願するに決し去月三十一日府廳へ願書を差出したり。（都新聞）

●昭徳碑建設式　今度大津御幸山へ近江婦人慈善會より同頭たりし、故竹井子、婦人の爲めに建設したる昭徳碑の建設式は、去月二十六日午前十時より執行せり臨式者は中井弘、岸岡内譯の兩氏及び高野大津地方裁判所検事正、澤田滋賀縣牧伴長、觀同同警部長大餞夫人、岡田夫人、大谷夫人同妹子等を始め二百有餘名にて中々の賑ひなりし。

●山梨縣婦人會　は追々盛に運動せんとす。

●磐城婦人會　にては去月十日大演説會を開き、頗る盛會なりし。

●日本全國廢娼同盟會年會　は昨日開會の所ろ計三日に延し今明の兩夜本郷中央會堂に大演説會あり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●日本全國婦人矯風會同盟大演說會 は今明兩日本郷中央會堂に開く、赤誠熱心の辨士熱血を濺で聽衆に訴ふべし、昨事欄を見よ。

●京濱婦人大親睦會 は去月三十一日秋季例會を築地新榮教會に開けり。

●明治女學校の義捐 日の丸雜誌第三卷九號(學校教員に禁酒を勸告せし文あり)を日本各所に頒布するに付、明治女學校の生徒二十名は、義捐金をなしたりと、日の丸雜誌に見ゆ。

●送別會 青山英和女學校校長、ミス、アッキンソン孃及びミス、カー孃は今般歸國の途につく但しおよそ一年間は印度埃及パレステナ地方より歐州諸國を遊歷し夫より米國へ歸らるゝ都合なりと、アッキンソン孃は日本にある事九ヶ年の久しきに及べるが再び歸來の積りなりといふ、因て去る日曜夕七時より同女校にて送學別會を開き、生徒各組より一人づゝをよび、本多庸一氏山岡京孃送別の辭をのべ、アッキンソン孃カー孃の答辭あり靜肅にして親愛ふかき集會なりしと。

●ミス、ベンダア孃 アッキンソン孃歸國につきミス、ベンダア孃は同校長となる。

●墺國音樂師死す 横濱居留地山手六十三番館在留墺國音樂師ミス、イーエス、バットン女は、去月三十日虎列刺に罹て死亡。

●看護婦生徒の卒業 日本赤十字社第一回募集の看護婦生徒十名は、規定の學科を終へ卒業試驗にて孰れも及第したれば、去月十六日より二ヶ年間實地の溫習に從事するよし、又第三回の募集に應ぜし志願者の內及第者十二名は同日より入學したり。

●北丹基督教會の婦人會 丹後竹野郡網野邸の婦人會は會員十七八名にして、一週間一回の集會にして仕立物洗濯物等の賃仕事をなし、每會得る處の金(一回二三十錢より多きは六七十錢)を積み慈善事業に獻せんと熱心働き居れり、會員中或る姉妹は庭園の皮竹を拾ひ集め之を賣りて其資に加へ、又神戶婦人傳道學校バロス女教師には此會の爲め金員或は雜書數冊を寄贈せられしより、每會一人を選び朗讀せしめ感話講究にかへつゝ從事する等の有樣益々うるはしく、其熱心誠に感ずべきものあり。

●女生徒の一文章値五十弗 久しく本邦に在りて昨年五月歸國せし米國宣教師コールビー女史がニューヘムプシーアのキーンなる婦人外國傳道會社の集會に臨み梅花女學校の事に付一場の話をなし、其節女史の伯母某には前コルビー女史が日本を去る時大阪青年會館に於て催したる送別會の席に於て梅花女學校の生徒前神松枝女が朗讀せし一篇の英文を取りて、之を會衆の前に一讀せしに、忽に滿堂の賛嘆を博し中錢の寄附を求めざるに彼等自ら喜捨を申出で、其金高三十四弗七十五仙に上り(此會は少人數のもの也)たるにより、コルビー女史は自ら之に加金して金貨五十弗となし、過日梅花女學校に送り越されし由。

●大阪梁三一神學校の集會 去月十三日には大坂梁三一神學校に於て、中央日本宣教師會の集會あり、セーチーギユリキ氏及ダドレー女教師、現時の傳道方法は速に日本を基督教に導くに充分なりやてふ題にて各其意見書を朗讀せられたる由。

●大坂一致女學校 にては安東氏の代として、曾て梅花女學校に教員たりし中川豐次郎氏を聘せり、其他に外國教師を近々一名增聘する由。

●新たに女學校起らんとす 神戶在留の米國女教師バーケンヘッド孃は、來年一月より一女學校を同地に創立し基督教的の婦人を養成せんとす、當時其豫備として和英兩語の聖書を學ぶ組を設け日々教授する由。

●鳥取英和女學校 は明治廿年九月七日開校せり、同校の委員として創立以來盡力せられし井伊松藏氏は、今同回校の幹事を兼ねて漢學の教授を受持ちたりと。

●不幸にも全燒したる鹿嶋英和女學校 は二日間閉校されしのみにて直に他の家を借入れ開校元の如く教授なし居らるゝ由、神戶の美以美の教師は女教師の爲に衣服等を送られ頌榮幼稚園の保姆は甲賀黑田兩孃の爲に恩物等を送らんと、目下製作中なる由。

●星野房子女史 は久留米の豪商星野武平氏の息女たり、天資至善克く女德を修む年十八九の比ひ尋常中學の科程を終ゑ、今現に婦人協會の幹事たり、明治二十年の頃星野利七氏の實弟某氏の婦となり、后ち幾ばくもなくしてその夫不治の病に罹り癲狂亦た救ふべからざるに至れり、女史苦心寢食を忘れ保養至らざる處なし、然れども病癒ゆるの日なく動もすれば戶外に遁逃して市中を橫行し、その爲す處質に見るに忍びざるものあり、而かも女史の之れに事ふる少しも挠まず、益々婦道を修し人をして感淚の瞼に交はるを知らさらしむ、女史當年二十有四客歲病夫不歸の客となる女史悲泣更らに人事を辨せず、遂に髮を斷て尼となり、父武平氏の別莊に同居し專ら心を婦人の矯風に盡くすといふ、また感ずべき婦人なる哉。

●貞女 福嶋縣耶麻郡笈川村大字濱崎六十六番地平民篠竹勝次郎の妻はつ子、安政二年五月生同郡熊倉村北見市太郎の一人娘にて母は同郡駒形村大字新武藤某の女なりと云ふ、はつ五歲の時父市太郎は病死し其後は母と共に駒形村に移住し暫く母の手一つにて養育されしが、母は後藤吉平と云人へ再嫁せし故はつも連子となりて後藤方に行き、明治二年今の勝次郎の妻となれり、素よりはつは性質柔和にして、篤實の者なれば、夫婦間最と睦まじく舅清吉を大切に介抱しつゝ、何くれとなく忠實に立働くより、一家和合して富むに非れども先づ尋常の生計を立てたりしが、今四年勝次郎は俄に風眼に罹りたればはつの心配一方ならず種々醫療を盡したりしも更に其効驗なく不幸にも遂に盲目と成果てたり、大事の稼ぎ人なくなりてはつも一時當惑したれども、斯くてはならじと奮起して朝は鳥と共に起き夕は虫の音と共に家に歸る長人と老男の心を慰め、終日山野に勞働して歸れば右の二人をか抱して、夜も万事一手に引受けて風雨寒暑の厭ひなく、紛身碎骨働きしが、追々長女そめ長男清二郎の二人迄設け其世話も中々容易ならず、從て家業も思ふ樣に働ければ、活計日を逐ふて細り腕弱き女の一身にては迚も立續くべく見えざりしが、はつ少しも屈せず子供を介負ひて是迄の通り働く內、去る十九年淸吉は胃瘍炎に罹りて足らぬ中より醫藥治療に手を盡し心を用ひしも、廿一年遂に黃泉の客となれり、斯くの重々の不幸に多くもあらぬ、家什道具や衣類迄

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

皆悉質入れ賣代なし、醫藥其他に消費し、最早身に纏ふ襤褸一枚の外何もなく、夜の者さへ藁屑を以て布團に代へ、住む家は追々破壞し、屋根は破れて坐ながら日月に接し、壁壞れて風雨を導き、椽柱傾頽今にも倒れる計りの有樣となりければ、ハツは、ある富家に雇れて一日僅かの賃錢を得、一家四口漸々其日を送り、長女ツメには裁縫を教へ、長男清吉は小學へ入學せしめ、授業料は云迄もなく諸上納に至る迄、三度の飯を節するも未だ曾て未納せしことなしと、今年今日迄廿三年一日の如く、貞操節義を守り屈せず撓まず一家を修めしを以て、同郡長より本縣廳へ具申し、去る八月十六日金六圓をハツへ賞與せりと云ふ。

●孝女　遠田郡涌谷村大友源左衛門（六十五才）は、其妻ちよの（四十九才）と貧しき生活を立てつゝありしが、五六年前より源左衛門半身不隨となりて、貧は益々貧となり、他の見る目も憐れなりしが、一人の娘のナツ（十八才）といへるはいと孝心深く、弱き親をば大切に養ひ、朝は菓子果物等を擔ひて賣り歩き、夕は賃仕事と看護とに夜を深し、身一つに家を立て、多年一日の如しと、感ずべき孝女にこそ。

●孝婦三井なみ　山梨縣北巨摩郡日野春村三井定敏養母ナミは、同村平民亡三井五郎兵衛長女にして、嘉永六年十二月、定敏の養父武右衛門に嫁せしが、天性善良にして入嫁以來、舅姑に事へて孝に、夫に事へて貞なり、家は固より裕かならぬに、姑リカは慶應二年の十二月より、中風症に罹りて身躰も自由ならず、言語も辨ぜざる程の重症なるを、ナミはよく注意して之に事へ、藥養は勿論、介抱に手を盡し居りしが、其後不孝にも、舅、夫ともに病沒したり、されどナミは少しも屈せず、病める姑に對して益々、孝養怠りなく、其志操を變ぜざること二十六年の久しきに彌れり、之が爲め姑リカは病蓐にあるも疲勞甚しからず、過る年憲法發布の折も、其高齡に達するを以て、官より若干の金圓を下賜せられ、現に八十五才の齡を保ち居るは、全くナミの孝養によれりとて、隣家舉りて感賞しあへりとぞ。

●京都通信

●同志社女學校　に教員たりし松浦政泰氏は去る九月同校の教頭に擧られ、又ホワイト女史の後任者として、是迄同巒の東華學校に教授の勞をとられしマイル孃來らる、女史は英語の外獨佛の國語に通じ博識の譽ある人なり。

●同志者看病婦學校　には此度新たに教師として加那太人フリード女師來校せられ、又産科教師として獨國醫學博士佐伯理一郎氏働かるゝよし。

●宗教界迫害　佛教僧侶たりし箕田覺念といふ者毎日曜夜ハッピ連中四五十人を率て基督教説教所に至り、亂暴の擧云ふに忍びざるものあり。

●岩手縣盛岡通信

●岩手女學校　村木經策氏外有志の計畫に係る女學校設立のとは今度愈其計畫成り岩手女學校と名付けて設置の運びに至る内外男女六七名の教員にて擔當教授し本月一日を以て授業を始む。

●海岸女學校教師　なるフエルプス孃は山田小梅女と共に當地に來られ一週間滯在中日曜學校及婦人社會の爲めに働かる。

●ウヰン孃　横濱フエリス英和女學校に因と教師たりし同孃は當地に居を定め專ら傳道に從事せらるゝ由。

●高知通信

●高地産婆學校　は明治廿一年開設以來、現今に至るまで卒業したる者四十三名（内高知市二十名各郡廿三名）あり、卒業生は内務省より免許を受け開業し居れり、又目下の現生徒は二十名あり。

●土佐婦人會　は萎微不振の有樣なるが、曩に事業部を設け現今織機裁縫等なし居れり。

●土佐郡第一高等小學校　に於ては、從來男生徒同樣女生徒にも英語科を教授し來りしが、今般女生徒に限り斷然英語科を廢せり、又高知教育會は高等小學校の英語科を廢し尋常中學校へ豫備科を置く事に決議し縣知事へ建議に及びたり。

●滋賀縣通信

●彦根幼稚園　は先きに有志者の發起によりて一時設立を見んとするに至りしが、其後郡長の轉任等の變ありて立消の姿となりしが、かくては素志を遂げ難しとて醫師中島宗達氏は更に規摸を少にして私立となし、不日開園せんとて盡力中なりと云ふ。

●學藝展覽會　去月十七日彦根に於て學藝展覽會を開きたりしが、長濱高等小學の女生數十名は教師に伴はれ滊車に投じて參觀せりといふ。

●長濱祭と矯風　濱祭といへば京坂地方までも知られたる大祭にて、祭禮の節他より入來る者夥しく、滊車滊船とも非常の混雜を生じ、旅宿の如きも一戸少くも百人を宿せしむる程にて、何が爲めにかくは集來るかといふにそは毎年山車といふを引出し、車上を劇場に擬し飾盡し美盡すといふの有樣にて、此處に各町内の六七才より十一二才までの少年をして演劇せしむるものにて、十二の山車毎年演ずる所を異にするを以て、之が演習をなさんとて各教師を迎へ、學校の通學を廢し多くの日子を費し、一時の喝釆を博するにあり、其家の子弟も之をなすを甘じ、今や少年よりも反て父兄の方狂するが如く、少年中之をいなむ者あるも父老の嚴命如何ともなし得ず、且之が爲めに無益の財を投ずること一家數百金に及ぶあり以て榮とす、且其前後に青年壯年の相會して賤する幾度なるを知らず、此事たるや花街に遊ぶの媒となり、之より身を壞す者比々皆是なるも、父兄以て意とせず漸く財を傾け盡さんとするに及んで驚き且責む已に遲きもの多し、此祭禮の當地矯風上に及ぼす損害は非常なりとす、青年中有志家ありて之を全廢せしめんとするも、父老の頑癖の爲めに未だ意を得ず、目下此有樣を目擊して痛嘆止まざる也。

●日本全國女學校卒業生姓名一覽（學校創立より、本年四月に至る、）

●地方の部

●大阪緋耳美那女學校　川島米子　愛川英子（合二名）。

●神戸英和女學校　葛岡床子　村井好子　川本崎子　竹内文子　山脇花子　今井幸子　森靜子　木村信子　長谷部米子　星野重子　布廣常子　江良小常子　竹友梅代　足立一子　大澤岸代（合十五名）。

●福岡縣尋常師範學校女子部　松永さら子　庄野すみ子　福井さも子　川波さわ子　柳坂ゆき子　岩崎しげ子　藤野たけ子　上村たか子　矢野千代子　森すえ子　入江しな子　林まさを　中村ゆふき　宮本ふさ子　原田やえ子　青木ふぢ子　曾田しか子　渡邊ふぢ子（合十八名）。

品名	十一月五日
白米（一圓ニ付）	
一等米	一斗〇升四合
二等米	一〇六
三等米	一〇八
四等米	一一三
五等米	一一九
正米（一圓ニ付）	
越中米	一斗四升九合
越後米	一四六
美濃米	一四四
秋田米	一五三
一志米	一五一
雜穀（一圓ニ付）	
本貫大麥	三斗三升五合
上州小麥	一九〇
竹林麥	二〇〇
梅澤大豆	二一四
青柳大豆	二〇五
吟小豆	一七八
黑胡麻	一七五
白胡麻	一三五
鹽（一圓ニ付）	
赤穗	二俵九五
大鹽	三〇五
本齋	四八〇
新齋	五一五
醬油（一圓ニ付）	七分八厘　八分二厘　八分八厘　一、一五　一、三〇　一、六〇　一、八〇　二、一〇　二、二〇　二、五〇
最上	
極上	
上物	
中物	
並物	
味噌（一圓ニ付）	
地製上白	七貫、〇〇〇
同上赤	七、〇〇〇
同紅赤	五、〇〇〇

品名	十一月五日
八王子織物（一反ニ付）	
本糸織鼠物	四円、五〇
同替立	五、五〇
同珍柄	七、〇〇
節糸織	三、七五
同瓦斯入	二、七五
一樂織	七、五〇
同本正珍柄	七、〇〇
飛地黄八丈	四、五〇
同大柄	七、〇〇
黑地黄八丈	四、〇〇
岸縞	二、七五
玉入丈	三、二五
甲斐絹	三、二五
同本縞	四、七五
同書紺	五、五〇
黑八丈	七、〇〇
黑七々子	六、〇〇
白斜子	六、五〇
嘉平治平	五、〇〇
仙臺平	七、五〇
本八端織	五、五〇
眞綿（一圓ニ付價）	
上々入金	一二二円、〇〇
上入金	一一五、〇〇
並入金	一〇九、〇〇
松入金	一〇五、〇〇
竹入金	一〇〇、〇〇
梅入金	九二、〇〇
絹糸（一圓ニ付）	
本練花色	二匁六〇
同色物	二五〇
羽二重糸	二四〇
芥子糸	二八〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五

品名	十一月五日
製茶（一貫目ニ付）	
山城江州稀大頭	二円、五五
同大頭	二、二〇
同中頭	一、五五
同中茶	一、二二
狹山稀大頭	二、〇五
同稀頭	一、七五
同大頭	一、四〇
同中頭	一、三〇
同中茶	一、〇〇
乾海苔（百枚ニ付）	円　三〇　一、〇五　一六　一、〇五　三〇　一、〇五　一五　七〇　三三　四五　一八　五五
洲崎	
大森	
深川砂村	
大師潮田	
上總	
仙臺	
炭（一圓ニ付）	
伊豆上	四俵五〇
同中	五六〇
同下	六五〇
丸備上	二三〇
角備上	二九〇
淺上	三八〇
水油（一樽ニ付）	
地水	六円、四五
胡麻	九、三〇
荏油	九、四〇
桐油	六、一〇
綿油	七、四四
坂水	七、五三
石油（一箱ニ付）	
チヤスター	一円、五二
デボース	一、五二
ホーキ	一、五三
ロシヤ	一、五一

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〲草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	產婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
橫山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治君述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同四錢
農學士寺尾熊三君著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼之介君著	昆虫植物金石採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼長君著	和畫手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治君著	鐙子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

基督のすがた

本書の前編は去る六月中江湖に公けにして頗る高評を忝ふせしが今該後篇已になりたるを以て去る十月十九日より發兌の手順とあれり。前篇を一讀せられたる諸君、願くは後篇をも購ひ添へて、スタウクル氏が基督を見るの精通なるを知り賜ふべし今その目次を掲けて此の書を歡迎せられんとする人の大意を推測する資に供せんとす

第九章……事業家たる基督
第十章……受難者たる基督
第十一章……博愛者たる基督
第十二章……靈魂の教化者たる基督
第十三章……說教家たる基督
第十四章……教師としての基督
第十五章……討論家たる基督
第十六章……感じの人なる基督
第十七章……感化者たる基督

定價金卅錢
郵稅金四錢

基督のすがた　全

洋裝極美製本
定價一冊六十錢

右は後篇と同しく十九日より發賣す

發行所　東京市麴町區三番町十番地　**南海堂**

發賣所　東京々橋區築地二丁目廿二番地　**一二三館**

同　大阪市西區土佐堀三丁目　**福音社**

今回愛知岐阜地方に起りし大震の爲め壓死若くは負傷し家屋を破り火災に遇ひし我同胞に對し基督信者有志の名を以て同情を表せんが爲めに東京及各地方教會諸兄姉の義捐を促し謹で諸兄姉の樂財を待つ

但寄付金は京橋區竹川町九番地護教社内委員へ向け十一月卅日迄御送金可被下候

委員は金員受領の證として其都度、基督教新聞、福音新報、護教、公會月報、日曜叢誌に廣告すべし

田井正一　植村正久　平岩愃保　橫井時雄
小方仙之助　石本三十郎　渡瀬寅二郎　貴山幸次郎
今井壽道　綱島佳吉

女學雜誌社取次書目

日本現在及將來之基督教	金森通倫君著	一冊	價	二十錢
淺瀬の波	池袋清風君著	二冊	同	三十錢
明治女大學	花房庸夫君著	一冊	同	二十錢
女小學躾草	松田敏足君著	二冊	同	四十錢
日本女子讀本	吉田利行君著	三冊	同	三十九錢
女子文例	香月恕經君著	一冊	同	二十五錢
貧兒の教育	安東松次郎君著	一冊	同	六錢
善惡之岐	湘煙女史著	一冊	同	三十五錢
正義の反響	安枝武雄君編輯	一冊	同	十五錢
作文口授	鈴木弘恭大人著	一冊	同	二十八錢
母のつとめ	三島通良君著	二冊	同	七十錢
國文自在	新倉錠次郎君編	一冊	同	四十錢
日本女禮式	坪谷善四郎君著	一冊	同	五十錢
新編物理學	木村駿吉君著	一冊	同	六十五錢
心理學	元良勇次郎君著	一冊	同	七十錢
國文抄	鈴木弘恭大人著	續出	同	三十錢
日本文學史	三上參次高津鍬三郎君著	二冊	同	一圓六十錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

組糸老舗

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

日本橋よし町

佐竹勝兵衛

正札引なし

新形 流行

右ノ外組糸一切御好ニ應ジ精製仕
○御進物等ハ美麗ニ調進仕候

○はおり紐 品々
○帯留類 品々
○時計紐 品々
○メリヤス 品々

○護教 震地教會の實況 第十八號來る七日發兌

本社本多庸一は岐阜名古屋等震地教會訪問等に視察として派出したれば其實況を登載す
震災の慈善等に係る廣告は無料にて高覧に應ず

東京京橋區竹川町九番地

上福音社

育兒談 全壹册 正價貳拾三錢 郵稅四錢

日本赤十字社總裁大勳位彰仁親王殿下御題字
同社篤志看護婦人會幹事副長能久親王妃殿下御序文
同會講師正六位勳四等足立寛先生講話

右ハ足立先生カ日本赤十字社篤志看護婦人會正科講義ノ后ニ於テ育兒法ノ大要ヲ講話サレシヲ日本赤十字社ヨリ發行セラレタルモノニシテ其巾幗社會ニ効益アル贅辨ヲ俟タサルモノナリ今回弊肆ノ發賣ノ允可ヲ得タルヲ以テ之ヲ大方ノ閨秀諸君ニ告ク

發賣書肆 東京市日本橋區馬喰町二丁目 島村利助

保險附風琴各種精製廉價販賣ス

麹町區三番町四番地 風琴製造所

風琴直シ御報知次第直ニ參上極廉價ニ修覆可仕候

發行所 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

「イヨー奇妙」

く

コンナ藥

鑵でサヘ

毛がはえる

から拔毛や

薄毛抔は直に澤山毛が

ふえるに違ひナイ

大鐘先生調劑
髮のこやし

毛のはへる香油

一名 **美人かつら**

大瓶 金三十錢
中瓶 金二十錢
小瓶 金十錢

此美人かつらは極々清淨ある植物油をうすめたるものに髮をこやし毛をはやす效能藥を加へたるものにして男女常に髮化粧に用ゆれば髮をこやし髮の發育を盛んにし髮の拔け落てはげる事なくしらが赤毛とある事なし又髮のうすきを厚くしほそきを太くしのぼせなどのうれいなくふけやできものなど生ずる事なし又産後病後などに髮の拔け始めしときは少しも早く塗用すべし拔け毛を止め毛あしを速くする事妙なり又既に拔け落たるあとなつぼしできものやけどのあとなどに塗り附ればおのづからいつとなく毛のはへると眞實なり男女殊に髮化粧に最も適當のものにして髮はさらさらとしてつやをもちねばつきあせ臭き等のうれいなし用方小なる筆か小ばけにて髮の根に塗り又は常の水油の如くして用ゆべし

發賣本舖

東京市京橋區銀座一丁目

つやぶきん本舖 **佐々木玄兵衛**

資藥同盟會員

銀座二丁目 岸田吟香
上横町 安川榮次郎
村松町 岩長藏
兩國米澤町 大木口哲

瀬戸物町 玉置金八
銀座三丁目 松澤八右衛門
池の端仲町 宇田治兵衛
元大坂町 高木與兵衛

水石町二丁目 森谷萬次郎
馬喰町一丁目 平尾賛平
小網町四丁目 黒澤利兵衛
本町四丁目 松本伊兵衛

神田小柳町明治水本舖 明治堂藥舖
神田一ツ橋町小間物店 越屋
淺草駒形町小間物店 中嶋百助
同黒船町洗粉屋 梅素亭宮城
下谷下車坂町角櫻香油本家 さかいや
同町免許藥舖 吉川龜太郎
同下車坂町免許藥舖 宇藤秀太郎
日本橋區通二丁目小間物店 柳屋五郎兵衛
通油町南新道小間物屋 村田藤七
同坂本町角藥店 德田多助
日本橋區室町三丁目神藥本家 資生堂
横山町一丁目小間物問屋 天野源七
同二丁目鼈甲問屋 江川金右衛門
四ツ谷傳馬町小間物問屋 山形屋定次郎
赤坂一ツ木町角洋物小間物 店宮
麹町區三番町免許藥舖 雨松下
麻布永坂町保玉免許散本家 堀

小石川諏訪町一等散本家 花樂堂
本郷五丁目藥舖 高嶋文藏
同眞砂町藥舖 尾澤作生堂
横濱尾上町一丁目藥舖 鈴木龜藏
同所賑町一丁目藥舖 里見亭太郎
同伊勢崎町一丁目小間物店 小池金治郎
同辨天通四丁目角唐物店 信の屋長二郎
同住吉町五丁目かなけぬき 加藤品太郎
同吉田町一丁目三十番地 松葉屋芳五郎
同太田町四丁目唐物店 山田又助
武州八王子八丁目町小間物店 大谷仁助
相州横須賀旭町 松下屋金之助
同所大瀧町寶藥小間物店 松本源次郎
同汐入町寶藥小間物 山本賀平
相州横須賀汐留町小間物店 小西屋金兵衛
同所小田原緑町小間物店 油屋久次郎
青森縣弘前市本町

越後中條町
下總佐倉彌勒町
駿州吉原洋物店
同靜岡紺屋町小間物店
山梨縣甲府八日町小間物店
仙臺大町四丁目小間物店
福嶋和洋小間物店
長野上後町
福井市旅籠町
山形市佐久良町五丁目
靜岡呉服町一丁目藥舖
磐城平絵町
函館末廣町小間物店
熊本市細工町二丁目
神戸元町鐵飴本舖
武田恒七

桂屋正藏
鴻野屋和助
佐野屋熊次郎
日下部現七
松田屋右衛門
高橋藤七
永山商店
中野商店
渡邊正三郎
木村捨松
伏見屋善藏
鈴木又七
加藤定吉
新田太平
紅屋治三郎
横川孝史

神戸元町一丁目藥舖 赤井筒中村寶藥店
廣嶋市播磨屋町 福井成美堂
廣嶋市細工町藥舖 高坂萬兵衛
大阪四ツ橋南詰ドクトリ丸 本林丁子堂
同心齋橋筋安土町洋物問屋 大崎組商店
名古屋市本町四丁目 土屋惣兵衛
岡山市上之町六十一番邸 細謹舍
播州姫路福中町 赤井筒支店
西京柳馬場四條上る 田中庄兵衛
加州金澤片町紫雪本舖 龜田伊右衛門
上州高崎町唐物小間物店 若林勝三郎
越中富山二番町 清水安兵衛
信州上田手長町 新田目小助
奈良縣奈良町字西寺四番地 加治新三郎
福岡縣博多中嶋町角五藥 堂跡藤井支店
長崎縣佐世保元町 朝日奈支店

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

一イヨー 奇妙

此美人かつらは極々清淨ある植物油をうすめたるものに髮をこやし毛をはやす効能藥を加へたるものにして男女常に髮化粧に用ゆれば髮をこやし髮の發育を盛んにし髮の抜け落てはげる事なくしらが赤毛とある事なし又髮のうすきを厚くしほそきを太くしのぼせなどのうれいなくふけやできものなど生ずる事なし又產後病後などに髮の抜け始めしときは少しも早く塗用すべし抜け毛を止め毛あしを速くする事妙なり又既に抜け落たるあとなつぼしできものやけどのあとなどに塗り附ればおのづからいつとなく毛のはへると眞實なり男女殊に髮化粧に最も適當のものにして髮はさらさらとしてつやをもちねばつきあせ臭き等のうれいなし用方小なる筆か小ばけにて髮の根に塗り又は常の水油の如くして用ゆべし

金三十錢　金二十錢　金十錢

發賣本舗
東京市京橋區銀座一丁目
つやぶきん本舗
佐々木玄兵衛

賣藥同盟會員

銀座二丁目 岸田吟香
上槇町 安川榮次郎
村松町 岩沢長藏
兩國米澤町 大木口哲

瀬戸物町 玉置金八
銀座三丁目 松澤八右衛門
池の端仲町 宇田治兵衛
元大坂町 高木與兵衛

本石町二丁目 森谷萬次郎
馬喰町一丁目 平尾贊平
小網町四丁目 黒澤利兵衛
本町四丁目 松木伊兵衛

神田小柳町明治水本舗 明治堂藥舗
神田一ツ橋町小間物店 仙□屋□助
淺草駒形町小間物店 中嶋宮城
同黒船町樂屋洗粉 梅澤宇い
下谷下山坂町角櫻香油本家 さ□や
同 同町免許藥舗 吉川□太郎
同 下車坂町免許藥舗 宇藤秀太郎
日本橋區通二丁目小間物店 柳屋五郎兵衛
通油町南新道小間物問屋 村田七
同 坂本町角藥店 徳田多助
日本橋區室町三丁目神藥本 家吉生堂
横山町一丁目小間物問屋 天野源七
同 二丁目小間物問屋 江川余右衛門
四ツ谷傳馬町小間物問屋 山形屋定次郎
赤坂一ツ木町角洋物小間物 店宮
麹町區三番町免許藥舗 松下
麻布永坂町保玉散本家 雨

小石川諏訪町一等散本家
本郷五丁目藥舗
同 眞砂町藥舗
横濱尾上町藥舗
同 所 駿河町一丁目小間物店
同 伊勢崎町一丁目角唐物店
同 辨天通四丁目かなけ□き
同 住吉町五丁目三十番地
同 吉田町一丁目唐物店
同 太田町四丁目小間物店
武州八王子町
相州横須賀旭町藥店
同 所大瀧町小間物店
同 汐入町小間物店
同 州横須賀町
同 所小田原
青森縣弘前市本町

花嶋 文藏
高澤 生堂
尾本 樂
鈴見 治郎
里池 金太郎
小の屋 長二郎
信藤 品太郎
加藤屋 芳五郎
松田 又助
山谷 仁助
大下屋 金之助
松木 源次郎
山木 賀平
小門屋 金兵衛
油屋 久次郎

越後中條町
下越後州佐倉町勸
駿州吉洋物屋
同 静岡縣府中町
山梨縣甲府四丁目
仙臺大和町小間物店
福島縣上洋町
長野縣後町
山形市旅籠町
福井縣佐久町
静岡縣吳服町五丁目
山形市旅籠町藥舗
磐城平四丁目
函館末廣町小間物店
熊本市新工町二丁目
神戸元町鐵飴本舗
武田 七

桂屋 正藏
鴻野屋 和助
佐野屋 熊太郎
日下部 現七
田屋 右衛門七
高橋 藤七
永山 商店
中野 商店
波邊 正三郎
木村 捨松
伏見屋 吉七
鈴木 又藏
加藤 定吉
新田 太平
紅屋 治三郎
横川 淨土

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY